

子どもたちに、大きな体験を。
多くの方々の熱意を糧に、
SSM は新たな一步を踏み出します。



スーパーサイエンスミュージアム事務局長

幾田 擁明 (広島市こども文化科学館 館長)

SSMは昨年、平成24年度で10年を経過いたしました。記念事業として平成24年6月30日には、「養老孟司先生による解剖学教室」を実施し、同年12月8日には、的川泰宣先生の講演会「ロケット開発の夢」を実施いたしました。このように、この10年の間には毎年、毛利衛さんを始め、数多くの著名な先生方の協力を得て、事業を展開することができました。事業に参加した子どもたちにとって、大変大きな経験になったものと思います。

SSMは、平成15年に、当時の広島市こども文化科学館館長の沖本博氏の発案で始まったと聞いています。しかし、平成15年度の事業報告書を見ると、当時の広島ガス株式会社社長の深山英樹氏を始め、大学、小中学校など多くの方々の熱意と情熱が結集されたものであったことが分かります。また、事業報告第1号には、サブタイトルとして「高度博物館事業を求めて」とあり、当時、設立20年を経過していた科学館の、SSMへの大きな期待も見えます。

SSM発足から10年を経過し、「ゆとり教育」の大波が過ぎ去ろうとしている現在、SSM事業も大きな進路変更を求められています。まず、SSMに参加することも達の置かれている状況が変わりつつあります。学校では再び土曜日授業が始まろうとしています。次に、指導していただく先生方も、年齢を10歳重ねられ、それぞれの学校で要職につかれるようになりました。そして、科学館も設立後33年を経過し、指定管理者制度という新しい制度の下で運営されています。このような状況変化に対応して、SSMが今後どのような方向に進んでいくべきかを示すことが、現在の指導陣に問われています。大変難しい問題ですが、この10年の成果を顧みる時、新たな一步を踏み出す重要な時期にあることを強く感じます。

この間、一貫してご支援いただいた広島ガス株式会社の深山会長、田村社長はじめ関係の方々には、心から感謝しております。SSM事業が今後とも、民間会社から社会貢献としての支援をいただくことのできる、意義ある事業として発展することを念願して、10周年記念誌の結びとします。

平成 25 年 9 月 30 日発行

発行／スーパーサイエンスミュージアム実行委員会
広島市中区基町 5-83 広島市こども文化科学館内
電話 082-222-5346

編集／スーパーサイエンスミュージアム 10 周年記念実行委員会
製作／株式会社 平和広告